

平成28年度 横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部「交通バリアフリー教室」の実施報告

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。霧が丘学園では、横浜市交通局と連携し実施しました。
- 霧が丘学園は、JR 横浜線 十日市場駅を最寄駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅から離れた霧が丘学園の子どもたちは、駅方面に行く際の乗り物としてバスを身近な乗り物と認識しています。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する「バスのバリアフリー」に関する座学とともに、実際のバス車両や車いす等を使った体験授業も行われました。
- クラス別に、①バス車両を用いた車いす利用体験・介助体験、②バスの乗り方に関する紙芝居及び運転席からの死角の体験、③バスのバリアフリーに関する座学を行いました。
- バリアフリーを始め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かた知識」として根付くことを期待します。
- 横浜市都市整備局は、③の座学において、**バスのバリアフリーの現状や、モビリティマネジメントの大切さ**を伝えました。

■交通バリアフリー教室について

- 【日時】平成28年7月7日(木)
第1～4校時(8:50～11:30)
- 【対象】霧が丘学園
5年生1～3組(109人)
- 【内容】①バスを用いた車いす利用体験・介助体験
②バスに関する紙芝居、バスの死角体験
③バスのバリアフリーに関する座学
→クラスごとに分かれて実施



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、「もっと知りたいバスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- また、「**便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと**」などを日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝えました。
- 霧が丘学園は最寄駅まで約2km離れており、駅へ行くにはバスや自転車を使う子どもも多くいました。中には、塾や習い事などで、バスを1人で利用する子どもも見られました。
- 将来的にバス事業が継続していくためにも、「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使うって暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知りたい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することの大変さ**とともに、**移動の介助の難しさ、大変さ**を肌にした子どもたちがたくさんいました。
- 子どもたちがバスへの関心を持ち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートする**きっかけとなる「交通バリアフリー教室」となりました。
- また、運転席に座ってバスの死角について学んだり、紙芝居を通じてバス車内でのルールや乗り方を学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。
- 子どもたち自身もいつも以上にバスを身近に感じてくれた1日になったと思います。



オリエンテーション



座学



車いす利用・介助体験



バスの乗り方に関する紙芝居



バスの前や横に目印のポールを立てて、運転席からどこが見えないのかを、分かりやすく学びました。



バスのスロープを上るとき、思った以上に力が必要であることを学びました。また、スロープを降りるとき、後ろ向きでないと車いすが前のめりになり危険だということを、体験から学びとっていました。